

アナフィラキシー発症時のエピペン注射 模擬練習のシナリオ 小学校版

【設定】場所は2階の教室、小学校1年生、鶏卵アレルギーでアナフィラキシー既往（皮膚と呼吸器症状）あり、エピペン所持、学校の保健室にエピペンセットとして保管（エピペンセットには本人用のエピペン・エピペントレーナーと内服抗ヒスタミン薬と水、マニュアル、八千代病院の連絡先記入済みエピペンパンフレット、記録用紙、役割分担を記した名札〔八千代病院のエピペンパンフレットに記載のA：観察、B：準備、C：リーダー、D：連絡、E：記録、F：環境、G：エピペン注射という役割分担を記載〕が入っている）

【参加者】
子：子ども（名前はK）、担：担任、頭：教頭、主：学年主任、養：養護教諭
隣：隣のクラスの担任、救：級友・保護者・通信指令室&救急隊・病院救急医師

平成26年3月 八千代病院 小児科 増田 進

	子どもの症状、状況、場所と人の配置、行動内容	会 話	ポイント説明
発症、初動	<ul style="list-style-type: none"> 1年1組の2階の教室で、昼食後の休み時間 級友が担任に子どもの様子がおかしい（<u>顔をかゆが</u>る）ことを伝えに来る。 担任が子どもの所へ行き、<u>顔の皮疹</u>を見つけ、教壇のほうへ誘導する。<u>軽い咳</u>をしていて、<u>やや元気なさ</u>そうなので、<u>教壇に横に寝かせる</u>。全身の皮膚を観察。 教室にある内線で職員室に電話をかける。 子どもにシーツをかける。 担任は黒板に時刻と子どもの様子を書く。 	級友：先生Kちゃんが顔をかいている 担：顔が赤くなってるよ、かゆいんだね 子：かゆい 担：苦しい？ お腹痛い？ 子：だいじょうぶ 担：1年1組エピペン対応をお願いします。 頭：わかりました。1年1組エピペン対応ですね。（と確認）	<ul style="list-style-type: none"> 皮疹だけなら保健室に連れて行くが、咳があるので教室に留まる。 黒板を記録ご活用 「場所、エピペン対応」が暗号と周知してある
連絡、招集、準備、役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 職員室で連絡を受けた教頭は校内放送をかける。 隣の担任は、1年1組の他の児童を共同スペースに移動させる。 教頭と学年主任は1年1組に向かう。 養護教諭は本人用のエピペンセット（エピペン、内服の薬、水、マニュアル、パンフレット、記録用紙、役割分担の名札）を持ち、1年1組に向かう。 教頭は、役割分担を確認しながら名札を渡す。〔名札は、観察、リーダー、連絡、準備、記録、エピペン注射、環境の7種類〕各自名札をかき行動に移る。必要物品を手を持つ。 	頭：1年1組エピペン対応をお願いします。 隣：みんな集まって、図書室に行きますよ。 頭：どんな様子ですか？ 担：Kちゃんが顔にかゆみがあって、咳が出ています。黒板に経過書きました。 頭：エピペン対応を続けましょう。 頭：観察は担任、リーダーと連絡は私、準備と記録は養護教諭、エピペン注射は学年主任、環境は隣の担任がしてください。	<ul style="list-style-type: none"> 血圧測定が可能なら自動血圧計も運ぶ。 注射担当はパンフレットで使用方法の確認をする。トレーナーで練習する。
観察、対応、記録、連絡	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの様子は、胸や背中にかゆい蕁麻疹がでていて、咳が続いている。担任は全身の皮膚を観察。 担任と教頭が声を出して、症状を確認する。 養護教諭はそれを聞いて、時刻と症状を記録する。 養護教諭はマニュアルを見て、他の様子や内服の判断をうかがう。 担任が内服できそうか確認している間、養護教諭は内服の準備をする。隣の担任に水筒の水を用意させる。<u>薬（かゆみ止め）を内服</u>する。内服の記録をする。 教頭は保護者に連絡する。保護者が電話を受ける。 教頭や養護教諭は様子の変化があるか、3分毎に声を出して聞く。 担任は子どもに触れながら、声をかけて、今お家に電話していることを伝え、苦しいか、痛いか、気持ち悪くないか、様子を聞く。声かけと観察を継続する。 	担：胸と背中に赤い蕁麻疹が10個以上あって、かゆがっています。咳も続いています。 頭：苦しそうですか。しゃべれますか。 子：しゃべれる。 養：声は出ますね。お腹痛いですか？ 薬は飲みそうですか？ 担：Kちゃん薬飲める？ 子：飲める。 頭：Kちゃんに蕁麻疹と咳が出ています。苦しくはないようです。今薬を飲んでいきます。こちらに来てください。 保護者：わかりました、すぐこちらに行きます。苦しうでしたら、エピペンを打ってください。 頭：分かりました。 担：今お家に電話しているからね。だいじょうぶ？苦しい？	<ul style="list-style-type: none"> 中等症が二つありアナフィラキシーと判断できる。（明らかに呼吸困難と意識低下があるなら、すぐにエピペン注射する。） 内服用の飲物用意、水痘のお茶を用意する。 3分毎に様子の変化を皆で観察、確認する。 子どもが不安にならないよう側から離れない。スキンシップして、観察と話をする、聞く。

判断 注射	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子は、咳がひどくなって、ゼイゼイと音が聞こえ、苦しそうな呼吸になってきた。 ・担任と教頭が声を出して、判断する。 ・エピペン注射担当がエピペンを持ち、子どもに対面するようにして太ももを押さえる。 ・担任は子どもの手と体を横から軽く押さえ、教頭が子どもの膝を横から軽く押さえる。主任の言葉を聞いたら、強く押さえる。 ・固定の体勢が整ったら、言葉をかけて、注射する。 	<p>担：咳が強くなって、ゼイゼイと苦しうになっています。</p> <p>頭：分かりました。ひどくなっています。ゼイゼイがあるのでエピペン注射をしましょう。</p> <p>主：今からエピペン打つよ、じっとしててね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重症と判断できる。 ・判断に迷うとき、様子や症状が分からない時には医師に電話相談する。「アナフィラキシーの緊急です」と。 ・内服が出来ていないとき、エピペン注射で症状が落ち着いてから内服してもよい。
連絡、 観察、 記録	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭は救急隊出動を要請する。 ・保護者に連絡する。 ・担任、教頭、養護教諭は3分毎に症状の観察をする。養護教諭は記録を続ける。 ・子どもの様子は、咳がなくなり、ゼイゼイの音もなく、呼吸困難が改善した。赤い湿疹が体にあるがかゆみはなくなった。 ・救急隊から call back がある。 (・教頭は、主治医が近隣の総合病院にいるなら、主治医に経過を報告するとよい。救急搬送を確認する。) 	<p>頭：◎◎小学校です。1年生の子がアナフィラキシーのためエピペン注射しました。病院に救急搬送をお願いします。</p> <p>通信指令室：分かりました。◎◎小学校ですね。直ちに向かいます。どんな症状ですか？意識はありますか？</p> <p>頭：苦しそうですが、意識はあります。</p> <p>頭：ゼイゼイという呼吸になったので、エピペン注射をして救急要請しました。</p> <p>保護者：分かりました。そちらに向かっています。お願いします。</p> <p>養：注射してから3分経ちました。どうでしょうか？</p> <p>担：咳がすくなくなりました。ゼイゼイありません。かゆみも止まりました。体の赤い湿疹はまだ見られます。</p> <p>救急隊：救急隊です。今どんな様子ですか。子どもはどこにいますか？</p> <p>頭：エピペン注射してから咳とゼイゼイは良くなっています。意識はよいです。子どもは2階の1年生の教室にいます。校門に誘導の者がいます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・注射したあとの効果を必ず観察すること。エピペン注射の効果は3～5分で見られ、8分で最大となる。8分経って変化なければエピペンは効果が無い。医師と相談。 ・呼吸停止、心停止なら蘇生を開始する。 ・通信指令室は症状、意識状態、年齢、場所、主治医を聞いてきます。 ・救急隊から call back で情報確認があります。 ・救急隊は患者が1階ならストレッチャーで、2階なら布担架で来る。
救急 搬送	<ul style="list-style-type: none"> ・環境担当は救急隊を誘導する。 ・養護教諭は記録を見せながら、情報伝達をする。 ・養護教諭が救急隊と同行し、救急病院に行く。 ・救急病院に到着後、記録を見せながら情報伝達する。 	<p>養：〇時〇分にアナフィラキシーの症状の湿疹が顔に出て、〇時×分にゼイゼイが出たためエピペン注射を左の太ももにしました。症状は軽くなっています。</p> <p>保護者は今こちらに向かっています。</p> <p>救急隊：わかりました。バイタルと個人情報と経過を確認します。</p> <p>養：同上</p> <p>救急隊：名前がKさん、□歳、体温は**、心拍は**、呼吸数は**、血圧は**、酸素飽和度は**、意識状態は青です。</p> <p>救急医師：診療します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心拍数や呼吸数が測定できていたら、記録したのもも提示する。 ・記録物は回収すること。

ポイント1：管理職を中心に、複数で観察して、会話をし、状況を確認することで、不安を乗り越えて対応ができます。

ポイント2：担任は子どもに何時も寄り添って、観察し、声をかけ、スキンシップして、子どもの不安を改善させる。

ポイント3：養護教諭は症状の観察、状態の把握に努め、同時に記録を行う。

ポイント4：エピペン注射の担当者は、注射の方法を、注射するまでの数分間、マニュアル・説明書・トレーナーを使用して確認。